

学校での食育を担う栄養教諭

高校保護者(匿名希望)



栄養教諭とは

栄養士免許と教員免許を合わせ持つ資格で、学校給食を実施している学校や給食センターで勤務します。私は給食センターと中学校での勤務を経て、現在は小学校で勤務しています。

栄養教諭の仕事には、食べることが好き、料理が好き、子どもが好き、教えることが好きな人、そして几帳面な人が向いていると思います。



子どもの食育に関わる仕事

栄養教諭の仕事内容は、主に「給食管理・栄養管理」と「食に関する指導」に分けられます。

給食管理・栄養管理 給食に関すること

- 給食の献立作成
- 栄養計算・価格計算
- 献立表作成
- 材料発注
- 給食費会計
- 調理員への調理指導・衛生管理等

食に関する指導 指導に関すること

給食だよりの作成、献立に合った指導資料・掲示物の作成、給食時間の食指導、食に関する授業の計画・実施、食に関するイベントの計画、児童給食委員会の指導、食物アレルギー対応についての相談、保護者向け試食会・料理教室の実施等



仕事のおもしろさ

栄養教諭の仕事は、創造性に富んでいます。献立作成では、子どもたちが苦手とする野菜や魚をおいしく食べさせる工夫をしながら、季節感のあるメニューを考えます。新メニューを取り入れるときには、自宅で試作をしてみても食品や調味料の使用量を決め、さらに試作品を会議で検討し実施に至ります。

栄養価の計算では、栄養価の過不足が出てくるので、肉や野菜など食材の使用量を増減しながら基準値に近づけます。面倒な作業ですが、長年やっていると何を増やせばよいか、減らせばよいかは、食品のだいたいの栄養価が頭に入っているの分かるようになります。

実際給食が出される日には、興味を持って食べてもらえるよう掲示物や担任用指導資料を工夫したり、教室へ行って話をしたりします。特に残りそうなメニューの時は指導を工夫することで残量がぐっと減ります。

食に関する指導では、各学年に応じた分かりやすい、楽しい授業をするために、指導案や教材・教具の工夫をします。他にも書けばぎりぎりありませんが、自分で考えて提案していく仕事が大半を占めています。

色々創意工夫しながら食育を進める中で、子どもの偏食が治ったり、子どもが食べ物や栄養に興味を持ったり、また保護者から感謝の言葉をいただくことに、とてもやりがいを感じます。



高校時代の私

私は、高校1年生の時、理系科目が得意でしたので、理系に進むことは決めていましたが、将来目指す職業はまだ決めていませんでした。両親に相談すると、資格がとれる大学に行くことを強く勧められました。特に母は仕事にいかせる様な資格を持っておらず、就職に苦労してきたとのことでした。

そこで私は就職情報誌でどの大学でどんな資格がとれるのか、自分の興味がある仕事は何なのか調べました。当時、ダイエットに興味のあった私は、健康的にやせる方法を調べたり、実践したりしていました。そんな中で私は、将来栄養士になれば食べ物の栄養や体のことが詳しく分かって自分自身の生活にも役にたちそう、と思うようになり、料理も好きだったのでその道へ進むことにしました。



大学時代に気が変わり、民間企業へ

大学3年生の時、栄養士現場実習がありました。2か所行くことになっていたのですが、病院と小学校へ行きかけたのですが、小学校の受け入れ先が少なく病院2か所へ行くことになりました。ですから小学校の栄養士がどんな仕事をしているのかよく分からないまま、民間企業での研究職に興味が出てきて、電器メーカーに就職しました。会社では技術職として、自動パン焼き機やIH調理器の調理実験等、調理ソフト開発(どのような条件で調理すればおいしく

できるかの研究)の仕事に携わりました。とてもおもしろくやりがいのあるものでしたが、会社の様子を見てみると、女性は出産後、続けていけない状況でした。私は一生、仕事を持ち自立して生きていきたいと思っていましたので、公務員である学校栄養職員(当時は栄養教諭ではなく、学校栄養職員という職名でした)に転職する決意をしました。そして大阪府の採用試験に合格し、2年間勤めた会社を退職して今の仕事に就くことになったのです。



職業をどう選ぶか

自分の好きなこと、得意なことをいかせる仕事につけば、一生楽しく仕事ができます。もちろん、社会に出れば楽しいことばかりではなく、人間関係等で悩むこともあります。好きな仕事であれば、やめようという気にはなりません。私は栄養教諭の仕事が大好きです。

まだ自分がどんな職業に就きたいか分からない人もいるでしょう。学生時代は、いろいろな人と関わったり、本を読んだり、旅行をしたり、もちろん学校の勉強も、いろいろなことにチャレンジしていけば、いつかやりたい仕事が見つかると思います。

